「最古」高浜12年ぶり再稼働

関西電力は28日、運転開始から48年余が経過した高浜原発1号機（福井県高浜町）を再稼働させました。原子炉起動は約12年ぶり。関電は高浜3号機（福井県高浜町）に続く2基目の40年超原発の再稼働で、廃炉が決まった施設を除いて国内最古の原発の運転となります。

高浜2号機も9月中旬に再稼働の予定。5月に成立した原発推進等5法（GX脱炭素法）で事実上可能とされた既存原発の「60年超」運転を巡り、全国で最初に対象となる可能性があります。

1号機は28日午後3時ごろ、核分裂反応を抑える制御棒の引き抜き作業を始めました。29日午前6時ごろに核分裂反応が連続する「臨界」に達し、8月2日に発電機を開始する予定。

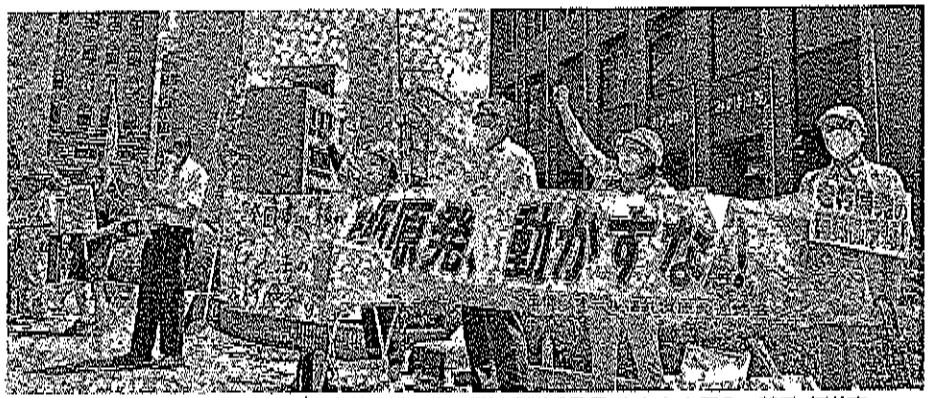
同28日の総合検査後、営業運転への移行を計画しています。

高浜1号機の運転開始は1974年11月。東京電力福島第一原発事故前の2011年1月から、定期検査で停止していました。

関電は16年6月、運転期間の60年までの延長について原子力規制委員会から認可を受け、地元の福井県は21年4月に再稼働への同意を表明。しかし、設置を義務付けられたテロ対策施設の完成が間に合わないなどして、再稼働がずれ込んでいました。

福井県庁前 住民ら抗議

廃止措置されていない原発では国内最古の関西電力高浜1号機（福井県高浜町）が28日、国民多数の反対世論を押し切って再稼働され、高浜発電所前や福井市の県庁前では、住民らが集まり、「再稼働反対。老朽原発すべてを廃炉」と、抗議の声を上げました。



抗議の声を上げる（右3人目から）日本共産党の佐藤正雄県副委員長、かねもと氏ら＝28日、福井市

高浜1号機は運転開始から48年が経過し、12年以上ぶりの再稼働です。

県庁前では、日本共産党の、かねもと幸枝衆院1区候補が「福島事故を教訓に原発の運転は原則40年と決めたのに、国が原発推進に変わったからと、老朽原発を次々動かしていいのか」と訴えました。

サヨナラ原発福井ネットワークなどは、関電が使用済み燃料中間貯蔵施設の県外計画地点を今年末までに示せなければ高浜1・2号、美浜3号の運転を止めるとした約束をごまかしている態度に対し、「約束通り、運転を止めるよう関電に求めてください」と県に申し入れました。

高浜発電所のゲート前では、関西圏や四国からも住民が集まり、約100人で抗議行動を行い、「老朽原発動かすな」と、シュプレヒコールを上げ、申し

2006年に東京都内の住宅で血を流した男性の遺体が見つかり、警視庁が18年に殺人容疑で再捜査した木原誠二官房副長官（自民党衆院議員）の妻が取り調べを受けたと「週刊文春」が報じたことについて28日、再捜査を担当した元捜査員の佐藤誠氏が都内で記者会見を開きました。男性は当時、木原氏の妻と婚姻関係にあったとされます。

報道を巡り木原氏の妻は同日、日本弁護士連合会に「深刻な人権侵害、恣意（しい）的な社会的制裁が生じている」として人権救済の申し立てをしたと明らかにしました。

会見で佐藤氏は事件性があると判断して再捜査が行われ、重要参考人として木原氏の妻から任意で事情を聞いたと認めました。死亡した男性の遺書もないとして「自殺と認定する証拠は存在しない」「事件性はある」と断言。自身は木原氏の妻が実行犯ではないと考えていたとしつつ、報道を受けて男性の遺族が再捜査を要請したことについて「当然だと思う」と語りました。

また再捜査が1年ほどで事実上の打ち切りになった経過に触れて「捜査の終わり方が異常だった」との認識を示しました。これに対して、警視庁の国府田剛捜査1課長は「証拠上事件性は認められない」とのコメントを発表しました。

一連の報道は、木原氏が捜査に介入した疑いがあると指摘しています。木原氏は28日、松野博一官房長官に「私が調査・捜査に圧力を加えたとの指摘は事実無根だ」と伝えました。松野氏が記者会見で明らかにしました。